

福島浜通りの復興と地域づくり活動

平成29年2月26日



NPO法人ハッピーロードネット
理事長 西本 由美子

NPO法人ハッピーロードネットのご紹介

◇活動の目的

福島県浜通り地域の「まち」「みち」「地域づくり」に関するコーディネートや人的ネットワークづくり、地域の未来を担う人材育成 などの事業を行い、楽しく住みやすい地域社会の実現に向けて活動しています。

- ・平成17年 交通安全母の会から「地域づくり団体」を結成、活動を開始
- ・平成20年 「特定非営利活動法人 ハッピーロードネット」設立

◇主な活動

(震災前)

- ・「こどもといっしょに未来のまちを考えるフォーラム」の開催
- ・国道6号ほか「ゴミ拾いボランティア」活動、「植栽・維持管理」活動の実施
- ・Jヴィレッジの植栽・管理や韓国ナショナルトレセンU14との交流活動
- ・常磐道(檜葉PA)「高校生といっしょに設計懇談会」の実施・支援活動
- ・「U-20が未来をつくるハイスクールサミットin東北」の開催
- ・福島県内や三重、岩手など各自治体の教育委員会懇談会等の支援 など

(震災後)

- ・東日本大震災による被災者の支援活動
- ・「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」ボランティア植樹(維持管理)活動 など
- ・「福島から世界へ発信する私たちの未来」ハイスクール世界サミットin福島の開催
- ・「みんなでやっぺ！！きれいな6国」国道6号道路清掃ボランティア
- ・浜通りの高校生をベラルーシへ派遣「日本・ベラルーシ友好訪問団2016」

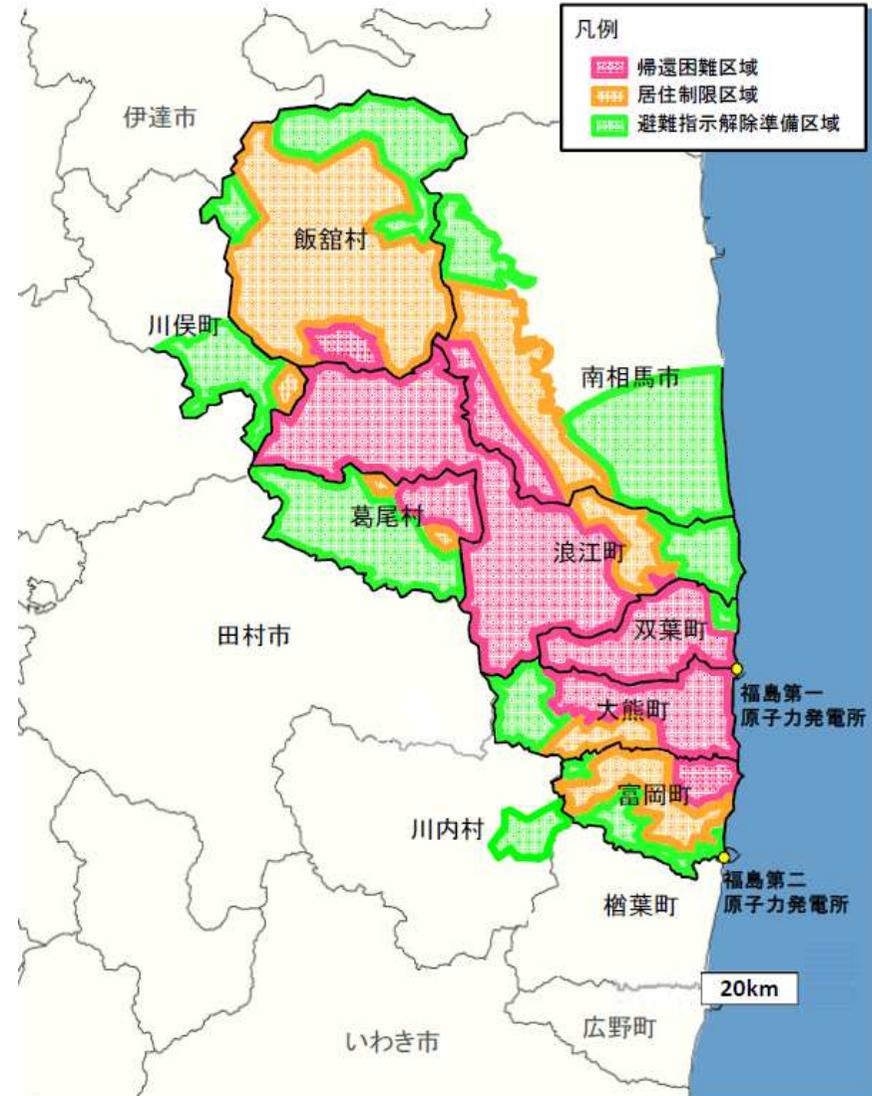
原発事故による避難の動き



- H23.3.12 1号機爆発
~20km圏内: 避難指示
- H23.3.14 3号機爆発
- H23.3.15 2号機損傷、4号機爆発
~30km圏内: 屋内退避指示
- ◇ 放射能拡散の恐怖
パニック状態、物流ストップ

避難指示区域の概念図

平成27年9月5日時点



地震・津波の被災状況(H23年3月)

地震による家屋の倒壊



津波により家屋が流出



国道6号の被害(福島県広野町)



津波による漁港の被害



原発事故の状況 (H23年3月)

(写真:東京電力)

福島第一原子力発電所



福島第一原子力発電所 1～4号機



福島第一原子力発電所 3号機



福島第一原子力発電所 4号機注水作業



被災者への支援活動 (震災直後H23.4~5月)

- これまでの人ネットワークにより、全国から支援物資を調達、日本サッカー協会を借りて整理
- (財)日本サッカー協会や協賛企業の協力を得て、**集団避難所へ支援物資を届ける。**
- 子供たちが避難しているサテライト校に、**文房具(13トン分)などの支援物資を届ける。**



▲大熊町集団避難所(会津若松市内)
(財)日本サッカー協会 大仁会長(右端)と物資を届ける



▲(財)日本サッカー協会を借りて、支援物資を整理



▲平成23年5月26日
双葉高校サテライト校
(いわき市)に支援物資を届ける

▼平成23年5月27日
相馬農業高校サテライト校
(南相馬市)
に支援物資を届ける



▲平成23年5月30日
福島民友

う。同会は27日までに双葉高のほかにも相双地方の高校へ文房具を届けた。

(復旧・復興) 国道6号の再開通・常磐道の全線開通

- H26.9月、一般車両は通行止めとなっていた国道6号が再開通
→ 約3年半ぶりに再開通し、国道6号が自由に通行できるようになった。
- H27.3月、常磐道の浪江IC～富岡IC間の開通により、全線が開通
→ 常磐自動車道は、東京～福島浜通り～仙台と結ばれ、復興が加速。



除染廃棄物の仮置き場(H28在)

- 除染後の指定廃棄物は、仮置き場に一時保管され、県内の中間貯蔵施設「長期管理施設」等に運搬される。
(平成27年から、仮置き場から中間貯蔵施設への試験運搬が開始されている。)



写真(H28.1月)

- ※・事故によって大気中に放出された放射性物質に汚染された廃棄物のほとんどのものは放射能濃度が低く、一般の廃棄物と同様の方法で安全に処理できる。
- ・一定濃度（1キログラム当たり8,000ベクレル）を超え、環境大臣が指定したものは、指定廃棄物として、国の責任のもと、適切な方法で処理することとなっている。

「ハイスクールサミットin東北」の再開

子供たちに、大人や社会への意見を提言する機会を提供し、子供たちが自主的に社会活動に参加することを目的として、平成18年1月から実施しているフォーラムは、震災後も実施。

- ・平成24年1月20～21日 仙台市で開催 (H23開催延期→ 震災後の再開)
- ・平成24年7月31日～8月1日 仙台市で開催
- ・平成25年8月23～25日 仙台市で開催
- ・平成26年8月8～9日 いわき市で開催 (記念すべき第10回大会を迎えた)
- ・平成27年8月6～8日 いわき市で開催



ハイスクール世界サミットin福島 (H28.8.8~10)

『福島から世界へ発信する私たちの未来』をテーマに、20都道県31校72名の高校生に加え、8ヶ国17名の海外の高校生が地域防災と、地域と世界の連携について議論。(サミット運営は、高校生のほか、OBの大学生がサポート)

[ワークショップ発表](#)



[ワークショップの様子](#)



[いわき踊り](#)



[現地見学会](#)



[交流会](#)



「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」活動



- 震災後、希望をなくしつつある福島浜通りの住民に元気と希望を与えるため、『ふくしま浜街道・桜プロジェクト』を立ち上げた。
- いわき市から新地町までの国道6号と沿線の県市町村道に桜の苗木を植樹し、福島浜通りの未来を担う子供たちが住民の一人として主体的にこのプロジェクトに関り、「愛するふるさとの復興」を作り上げていく礎となるよう、復興のシンボルとして二万本の桜並木を目指して活動。
- 植樹費用や維持管理(除草・施肥・防除等)は、全国を対象としたオーナーやボランティアを募集しており、誰でも桜1本分の「オーナー」になればメッセージと名前が書かれたプレートが掲げられる。



▲桜の苗木を植栽



▲維持管理するオーナー



ふくしま浜街道・桜プロジェクト

視察 ハワイマウイ郡長 広野町桜公園(H28.5.1)

ハワイマウイ郡長が視察にいらして頂き、植樹を行いました！
5名の皆さんで大きな桜の木1本を植樹していただきました！皆様遠いところありがとうございました。



「清掃ボランティア活動」の復活 (H27.10.10)

- 「みんなでやっぺ!!きれいな6国」ボランティア活動は、東日本大震災の影響により休止していたが、地域の子供たちからの活動再開の要望を受け、5年ぶりに復活した。
- いわき・相双地区の高校生が主体となり、青年会議所や住民・企業の方々の協力により、約1,400人が参加、いわき市～新地町間の国道6号沿道の清掃活動を実施した。



5年ぶり清掃奉仕



国道6号、1400人汗流す
NPOやJCCが主導

国道6号の清掃に汗を流す参加者ら—Jヴィレッジ付近
NPO法人ハッピーロードネットワークや経通りの青年会議所など「みんなでやっぺ!!きれいな6国」実行委員会は10日、浜通りの国道6号で5年ぶりの清掃ボランティアを行い、民約1400人が古里道の美化に向けてごみ拾いに汗を流した。
清掃ボランティアは、通りを遮断する国道6号環境美化を目的に2000年(平成12年)に始まったが、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故による避難の影響で2010(平成22)年を最後に休止した。



【8区間、約50kmを清掃】

「みんなでやっぺ!! きれいな6国」

国道6号 清掃ボランティアを実施



実施日：平成28年10月15日（土）福島県いわき市～新地町間

「みんなでやっぺ!! きれいな6国」は、東日本大震災の影響により休止していましたが、昨年5年ぶりに再開し、今年も関係機関の皆さまのご協力により開催することができました。

当日は、いわき地区・相双地区の中学生、高校生や青年会議所、復興に携わる企業の方々、その他多くの方に参加して頂き、約1,400人で、いわき市～新地町間の国道6号及び沿道の清掃活動を実施しました。

総合会場（広野）開会式の様子



実行委員長 西本由美子



生徒代表
双葉翔陽高等学校3年
山田拓実君



国土交通省
磐城国道事務所
松田和香所長



国土交通省
東北地方整備局
川瀧弘之局長



広野町長 遠藤智様



実行委員 松本敬三



浜の大動脈清掃 心重ね

高校生ら1300人
美しい古里復興へ

福島民友 27面
(平成27年10月16日)

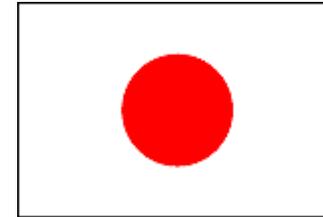
「日本・ベラルーシ友好訪問団2016」

福島県浜通り班

報告①

2016年7月20日～8月4日

ミンスク州立小児病院



集合写真



甲状腺検査病棟前

ゴメリ州での活動



ゴメリ州執行委員会 リュドミラさん 放射線学研究所 アヴェリンさんと集合写真



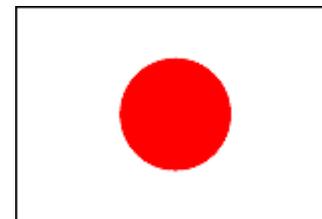
チェルノブイリ原発事故を対応した著名な方々からの講義・質疑応答

「日本・ベラルーシ友好訪問団2016」

福島県浜通り班

報告②

2016年7月20日～8月4日



ズブリヨクでの活動



文化交流 伝統衣装ダンス

ホイキニ地区での活動



ホイキニ市の看板

ホイキニ地区での活動



現地生徒との集合写真

2020東京オリンピック聖火リレーを浜通りへ誘致活動

- 東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長は、平成26年6月17日福島県庁で県内聖火リレーのコース設定で、福島浜通りを縦断する考えを示した。
- 聖火リレーを通して東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興を世界に発信していく。



▲森組織委員会会長と佐藤福島県知事(当時)



安倍総理に双葉、双葉翔陽高生が要望

2020年東京五輪の聖火リレーの本県での実施を要望するため、安倍首相（中央）を表敬訪問した双葉翔陽高（左側）と双葉高（右側）の生徒たち



来年3月末で休校となる双葉高と双葉翔陽高の3年生計18人は4日、首相官邸で安倍晋三首相に対し、2020年東京五輪・パラリンピックの聖火リレーを県内の国道6号で実施してほしいと要望した。安倍首相は「世界に向かって復興を示すことができる。実現できるように頑張りたい」と前向きに応じた。

聖火リレー「国道6号で」

首相に双葉、双葉翔陽高生が要望

官邸では、双葉高を代表して菊池歩美さん(17)が「聖火リレーの実施で福島県のイメージ改善につながる。実施が決まれば除染を進める方針も出てくると思う」と提案。双葉翔陽高を代表して山田勇樹さん(17)が「復興のお手伝いの一助として国道6号で植樹などに取り組んでいる。私たちが聖火ランナーとして走りたい」と述べた。

両校を代表し、双葉高の及川彰大さん(17)が安倍首相に要望書を手渡した。安倍首相は「頑張っている生徒を応援してほしい」と激励した。

両校の生徒はNPO法人ハッピーロードネットと連携、国道6号の植樹や清掃に取り組んでいる。このほか馳浩文部科学相と遠藤利明五輪担当相に要望した。

▲河北新報 平成28年4月5日(火)



首相官邸で安倍首相と記念写真に納まる双葉高と双葉翔陽高の生徒たち

安倍晋三首相は4日、東京五輪・パラリンピックの聖火リレーで県内の六号国道を活用する意向を示した。同日の双葉、双葉翔陽高生の要望に応じた。安倍首相は「(六号国道を)聖火ランナーが走ることで福島の復興を示せる。実現できるように頑張りたい」と述べた。

両校の生徒十八人が首相官邸で安倍首相と面会した。生徒は六号国道での桜の植樹活動に取り組んでいることや双葉郡のサテライト五校が平成二十九年分から休校になる状況を説明した。双葉高の菊池歩美さん(三年)、双葉翔陽高の山田勇樹さん(同)が「聖火リレーは風評払拭(ふっしょく)につながる。安心して走れるように除染を進めてほしい」と要望した。

生徒らは馳浩文部科

6号国道で東京五輪聖火リレー 首相「実現したい」

双葉、双葉翔陽高生 要望に

首相、遠藤利明五輪相にも要望した。聖火リレーについて、東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長も浜通りを縦断する考えを示している。



▲福島民報 平成28年4月5日(火)

子供の地域社会活動の参画に際して大事なこと

①子供たちの自主性を尊重する。

- ・子供たちの意見を取り入れ、自分から参加する意欲を認め、また、自主性を引き出していく。

②無理をしない。

- ・子供たちは、学校生活やクラブ活動などそれぞれの生活がある。参加できるときに参加してもらい、長く続けることが大事。

③活動成果(満足感)を求める。

- ・子供は欲望のかたまりみたいなもの、遊びの中からも何かを得る。
- ・活動して結果や成果を出し、形にして残すこと。満足度の向上を図る。

④大人がやってみせる。

- ・子供はよく見ている。地域の大人(親)が何をやっているのかを。
- ・口先だけではダメ、一緒に取り組むことが良い見本になる。

◇「継続」することの難しさ、大変さ、大切さ

→「誠実な活動」と「周困への理解促進活動」により克服

私たちの願いは
30年後の未来に子ども達が
双葉8町村に戻ってこられるように
ふるさとを再生して
双葉市をつくりたい！
それが私たちの望みです。



<http://happyroad.net/>



@hamakaidosakura

